

あいさつ 「様々な経験を成長に」

学校の周りの木々も春の日差しを受け、命の躍動を感じる季節になりました。令和七年四月十日小学部十七名、中学部十八名、高等部三一名の新入生を迎え、全校児童生徒二五五名で和歌山さくら支援学校での学びがスタートしました。

さて、本校では居住地校交流や学校間交流、和歌山北高等学校との交流及び共同学習など取組が広がりつつあります。隣接する和歌山北高等学校との交流では、生徒会活動、磯の浦海岸クリーン作戦、体育祭や文化祭、水泳指導や読み聞かせ等様々な取組が始まり広がっています。本校高等部では、地域の草刈りに出向くなど地域への取組も始まってきています。

私は、子どもたちには学校の取組を通して様々な人とつながることで学びを深めてほしいと考えています。日常的に子どもたちは「できたね」「ありがとう」等の声を家族や関係者・教職員からかけられています。いつも言ってもらえる大切さがあることと同時に、地域の人や初めて会った人に「すごいね」「できたね」「いつもありがとう」など子どもは少し照れるかもしれませんが、でも他の人に褒められたこと、感謝されることで子どもの自信や自己有用感（自分は役に立っている・自分っていいよなという気持ち）を膨らませてほしいと願っています。この気持ちは将来の社会生活に繋がる大切なことです。そして何より自分を大切にしてくれる人になってほしいと願っています。

また、授業づくりでは、授業の始まりで『めあて（今日、この授業で何を学ぶのか、何を頑張るのか）』を子どもに伝えること、授業の中でいつでも『めあて』がわかるようになっていることなど、子どもにとって主体的に学ぶために必要な環境を考えてきました。引き続き、主体的に学ぶためにはどのような環境が必要かを整えながら、本校の「生活科（小学部）」「職業・家庭科（中学部）」「職業科（高等部）」の授業づくりを学校全体で深めていきたいと考えています。授業参観など授業を見る機会には、ご意見・ご感想をいただければと思います。

最後に、昨年度から育友会の協力を得て、子どもたちの物品交渉が始まりました。小学部の児童会、中学部・高等部の生徒会の子どもが各学部で購入してほしい物品を集約し、保護者にプレゼンをしました。初めてのことでしたが子どもたちは、一生懸命、育友会（保護者）の質問に応答し、見事物品の購入に至りました。育友会（保護者）の皆様には、学校と共に子どもを育てる応援団として引き続きご協力をお願いしたいと思います。今年度は子どもたちのどんな成長が見られるのか楽しみです。引き続き本校教育への理解と推進にご協力いただきますようお願いいたします。

県立和歌山さくら支援学校

校長 溝端 英二